



下大和田谷津田だより



2005年4月号

第62回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

3月5日 くもり

朝からどんよりと寒い一日で、観察参加は主催者一人、山の手入れに2人、他に自由参加大人1人、子供1人でした。見つけた春：シジュウカラがツピーツピーと囀っていました。ただの1回だけでした。2月はわずかに2種だった開花植物は9種にふえていました。ノイバラ、ニワトコは芽吹いていました。アオキの花芽は膨らんで割れ、中の雄花が顔を出していました。水中にショウブの芽が伸び始めていました。

啓蟄は過ぎましたが、この寒さのせいか虫は姿を現わしませんでした。田んぼの中もニホンアカガエルのオタマジャクシだけが動き回っていました。メジロ、エナガ、シジュウカラの大きな混群（数十羽）が葦を渡って行くのが見られました。

開花植物：セイヨウタンポポ、ノボロギク、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ナズナ、タネツケバナ、コハコベ、スズメノカタビラ。

昆虫：ヨコズナサシガメ幼虫コロニー（いつものところに同じようにいました）。

野鳥：ツグミ、ダイサギ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、コゲラ、モズ、スズメ、セグロセキレイ、アオジ、カケス、ウグイス、ハシブトガラス、キセキレイ。

その他：カワニナ、ニホンアカガエルのオタマジャクシと卵塊。

（参加者：大人1人；報告：網代春男）

第46回谷津田プレート・プロジェクト(YPP)

「味わおう！春の谷津田」

3月19日 晴れ

恒例の野草を食べる会でした。まずは田んぼや林の周りでみんなで野草摘み。風が少し冷たかったのですが、ホオジロやウグイスがさえずり、春を感じさせます。今年は2月の下旬から例年よりも寒かったので野草の出具合が遅れているようでしたが、食べるには十分な種類と量を見つけられました。摘んだのは、ヨモギ、カラスノエンドウ、セイタカアワダチソウ、セリ、ギシギシ、スイバ、ノビル、フキノトウ、ニワトコ、タンポポなどなど。メインは天ぷら。春の味わいに次々と箸が伸びて、揚げたそばからなくなっていきます。一番人気はニワトコの新芽。ちょうど芽が出始めたところで、柔らかな新芽のくせのない味は格別です。ほかにも山菜入り豚汁、お浸し、そしてヨモギ団子... 野草だけでお腹が一杯で、持ってきたお弁当までは食べきれなかった方も多かったようです。スギ花粉に悩まされながらの参加だった人もいましたが、ぜいたくな春を味わうことができました。今回参加できなかったみなさんもぜひ、近くの田んぼへ出かけてみて下さい。この季節ならではの馳走が一杯ですよ。

（参加者：大人20人・小中学生5人・乳幼児4人、報告：高山邦明）

下大和田季節のたより

3月19日 田んぼの中でカラス、畦ではヒトリが黄色い花を開き始める。早くに孵化したアカガエルのオタマジャクシに足が生えていた（高山）。

3月27日 早朝は冷え込んで畦に霜が降りていた。しかし、ウグイス、セグロセキレイ、キジ、コジュケイ、シジュウカラ、ヤマガラスなどたくさんの鳥が春の訪れを喜ぶようにさえずっていた。田んぼではたくさんのオタマジャクシが咲き、白いじゅうたんのよう。ゴシヤナギなど木々も花を開きはじめていた。日が昇って急に暖かくなった田んぼではシュレゲルアカガエルのオタマジャクシがちょっと寝ぼけた声で初鳴きを聞かせてくれた（高山）。

いよいよ春本番。鳥たちが恋の歌をさえずり、田んぼはお花畑に。冬眠から目ざめたカエルたちも姿を現し始めました。そして、米づくりのスタートです。4月に田起こし、5月、6月にコシカキや古代米の田植え。今年の育ち具合、取れ具合はどうでしょうか？稲穂が垂れる田んぼを夢見ながら田んぼで汗を流してみませんか。

高山邦明